
隔絶

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隔絶

【Nコード】

N6791F

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

島袋は優秀なアスリートだった。しかし、あと一步のところまでオリンピックにでれなかった。

隔絶

島袋は優秀なアスリートだった。

しかし、あと一步のところでもオリンピックにでれなかった。

彼は無念にうちひしがれた。

世界の舞台で戦いたかったのだ。

そこで、友人の羽間に相談した。

羽間は、ふうんと興味なさげに息をはき、

「何も健常者の舞台で戦うことはない」と言った。

「どうということだ？」

「ほらよお。世の中、皆に機会を与えようってことで、パラリンピックがあるわけだよ。俺は逆差別なんじゃないかと思うんだが――」

「それは困る。不自由な身体では――」

「おっと、それがなあ。今度、サイコパス精神病質だけで出られるサイコロピックというのが出来たんだ。これなら大丈夫。おまえがキチガイの診断書をもらえばいい。俺は医者だ。書いてやる」

島袋は羽間から診断書を貰って、サイコロピックにでることになった。

大会前日、島袋は逮捕された。詐称したせいだった。

刑務所にはいつて、一週間。羽間が面会にきた。

「おうおう、喜べ。今度犯罪者の五輪が開催されるぞ」

「本当か？」

「本当だ。犯罪者にも活躍できる権利をってことらしい。まったく、いつもなら人権といえは何でも叶うとおもってやがると貶すところだが、今回はおまえにとってチャンスだ。そうはいわん」

「で？　でれるんだな」

「おうおう。――っと、何々――ダメだ」

「なぜだ？」島袋は身を乗り出した。

「おまえ、詐称でつかまったんだよな？」

「ああ」

「どうやら、今回は性犯罪者だけらしい。残念だったなあ」

翌日。刑務所内で島袋は再逮捕された。罪状は――。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6791f/>

隔絶

2011年1月26日23時25分発行